

東京市公衆食堂の運営実態に関する基礎的研究

A Basic Study on the Business Status of Community Restaurants in the Tokyo City before the World War II

○實方琢人¹, 阿部貴弘²

*Takuto Sanekata¹, Takahiro Abe²

Abstract: In 1918, rice riots occurred by the soaring rice prices in Japan. Japanese city such as Tokyo and Osaka installed community restaurants as a solution to them. This study analyzes the relevance between the activities of the community restaurants in Tokyo City before the World War II and the situation at that time and clarifies actual condition of management of them.

1. はじめに

1900年代前半, わが国では第一次世界大戦やシベリア出兵等に伴う米価の高騰により, 米の入手が困難になり, 全国で米騒動と呼ばれる暴動が起きるなど, 市民の食生活に深刻な影響が及ぼされた. この解決策として, 東京や大阪等の都市では「公衆食堂」が設置された. 公衆食堂とは, 米騒動を契機として庶民の食生活難を解決し, 社会不安を緩和するために開設された公益の食堂である. 公衆食堂は, 廉価で食事を提供することで, 当時の市民の食生活を支えていた. 現在, 公衆食堂はすべて閉鎖されているが, 深川公衆食堂は, 深川東京モダン館として建築のみ遺されている.

こうした公衆食堂は, その存在こそ知られているが, 運営実態をはじめとして, 社会的な役割や存在意義を議論するための基本的な情報が整っているとは言い難い. 子ども食堂をはじめとして, 食による貧困対策やコミュニティ形成・再生に関心が高まるなか, 公衆食堂が果たした社会的役割を再考する意義は大きい.

そこで本研究は, 公衆食堂の社会的な役割や存在意義の議論に資するべく, 公衆食堂の運営実態を明らかにすることを目的とする.

2. 研究対象

本研究では, 仮設食堂を含む東京市設の食堂23カ所を研究対象とする (Table 1).

Table 1. List of community restaurants

No.	食堂名称	No.	食堂名称
1	神楽坂食堂	13	猿江食堂
2	上野食堂	14	大塚食堂
3	日本橋食堂	15	芝浦食堂
4	神田食堂	16	柳島食堂
5	本所食堂	17	相生町食堂
6	三味線堀食堂	18	新宿食堂
7	深川食堂	19	茅場町食堂
8	丸之内食堂	20	田町食堂
9	数寄屋橋食堂	21	芝岡橋食堂
10	両国食堂	22	江東橋食堂
11	九段食堂	23	東雲食堂
12	眞砂町食堂		

3. 研究方法

公衆食堂の開設期間, 経営状況, 運営内容, さらに社会的役割等を把握するため, 文献調査を実施した. 文献調査には, 1900年代前半の公衆食堂に関する東京市(都)の公文書および広報, 並びに当時の新聞記事(読売新聞の新聞検索システム『ヨミダス』)を用いた.

4. 結果と考察

(1) 公衆食堂の開設時期

公衆食堂の関連年表を Table 2 に整理するとともに, 各公衆食堂の開設期間および経営方法の変遷を Table 3 に整理した.

Table 2. Related chronology of community restaurants

西暦	主な出来事
1918年(大正7年)	全国で米騒動が起こる発端となった事件が発生
1920年(大正9年)	東京市初の公衆食堂『神楽坂公衆食堂』開設
1921年(大正10年)	三菱合資会社からの25万円の寄付により, 市内5カ所に食堂増設を計画
1922年(大正11年)	公衆食堂資金規定
1923年(大正12年)	関東大震災により神楽坂食堂を除いて焼失 震災善後会の寄付金15万円で市内10カ所に仮設食堂を設置
1924年(大正13年)	帝都復興事業として50万円で5カ年計画により10カ所の食堂設置を計画
1929年(昭和4年)	市設公衆食堂名称改称
1933年(昭和8年)	公衆食堂資金廃止
1941年(昭和16年)	太平洋戦争開戦
1945年(昭和20年)	公衆食堂廃止

Table 3. Opening period of community restaurants

No.	食堂名	開設時期	閉鎖時期	開設時	直営委託変遷 その後の変遷	
1	神楽坂食堂	1920年4月17日	1938年4月22日	委託		
2	上野食堂	1920年5月14日	1938年~1941年	委託	1933年10月1日直営	1935年1月24日委託
3	日本橋食堂	1923年1月13日	1926年9月30日	直営		
4	神田食堂	1923年3月21日	1936年3月31日	直営	1927年9月20日委託	1934年10月7日直営
5	本所食堂	1923年7月20日	1926年3月	直営		
6	三味線堀食堂	1924年1月20日	1945年6月30日	直営		
7	深川食堂	1924年2月1日	1926年3月頃	直営		
8	丸之内食堂	1924年2月5日	1925年4月30日	直営		
9	数寄屋橋食堂	1924年2月7日	1924年12月31日	直営		
10	両国食堂	1924年2月20日	1927年9月24日	直営		
11	九段食堂	1924年4月11日	1945年6月30日	直営		
12	眞砂町食堂	1926年4月13日	1936年3月31日	直営		
13	猿江食堂	1926年6月12日	1936年9月30日	委託		
14	大塚食堂	1927年5月8日	1936年9月30日	委託		
15	芝浦食堂	1927年11月13日	1943年12月25日	直営		
16	柳島食堂	1929年5月11日	1936年9月30日	委託		
17	相生町食堂	1929年8月28日	1938年4月22日	委託		
18	新宿食堂	1931年4月14日	1936年9月30日	委託		
19	茅場町食堂	1931年8月1日	1938年4月22日	委託		
20	丸之内食堂(2)	1931年8月11日	1945年5月31日	委託	1934年10月10日直営	
21	深川食堂(2)	1932年4月1日	1936年3月31日	直営		
22	田町食堂	1932年4月1日	1945年6月30日	直営		
23	芝岡橋食堂	1944年3月30日	1945年5月31日	不明		
24	大塚食堂(2)	1944年6月15日	1945年6月30日	不明		
25	江東橋食堂	1944年12月27日	1945年5月31日	不明		
26	東雲食堂	1945年2月1日	1945年5月10日	不明		

1 : 日大理工・学部・まち 2 : 日大理工・教員・まち

(2) 公衆食堂の経営

公衆食堂の経営方法には、「直営」と「委託」の2種類があった (Table 4)。

委託に関しては、一定期間で受託者の更新が必要となるが、委託先が見つからない場合は自動的に直営となった。公衆食堂の最盛期は直営 8 カ所、委託 8 カ所であったが、直営のほうが売り上げは良かった。

Table 4. Management method of community restaurants (direct management and entrusted management)

直営	委託
食堂営業上で必要な設備等を市が供給し食堂長も役所から配属されていた。市一般の諸規定及び食堂条例同施行細則に基づいて経営していた。	受託経営者を指定し営業上必要な設備等は市が供給しており食堂条例同施行細則に基づいて経営していた。受託者は建設物維持費として食堂使用料を納金していた。

(3) 公衆食堂の運営内容

公衆食堂は廉価で食事を提供する施設であり、基本的な運営形態として、朝、昼、夕の3種類の定食を用意していた。こうした基本的な運営形態に加え、東京市初の公衆食堂である神楽坂食堂では、大正 10 年 7 月にミルクホールを開設し、11 月には価格の高い周辺のうどん屋、蕎麦屋を牽制する意味も込めてうどん食を開始し、軽食にも対応した。また、ミルクホール開設と同時期に新聞、官報の無料閲覧を開始し、さらに時々落語を演じるなど、単に廉価な食事を提供するだけでなく、情報発信の窓口や娯楽を提供する場としても機能していた。

昭和 5 年頃からは、一部を除いた公衆食堂で基本の定食を甲と乙の2つの階級に分けた計 6 種類の定食を提供しており、さらに嗜好品の種類も増加したことによって、単品料理からコーヒー、紅茶、ミルクといった飲み物まで、公衆食堂は多様な食事を提供する場へと変化していった。また、年末には歳末奉仕デーとして定食に 1 品追加したり、正月にはお雑煮食べ放題などのイベントも行われたりするなど、利用者へのサービスも拡充していった。さらに、食堂利用者は独身者やひとり暮らしの学生も多くいたことから、食堂によっては裁縫部や人事相談所が設けられるなど、利用者の利便性向上も意識した運営がなされていた。

定食の内容は、ご飯が 1.5 合に朝食は味噌汁、香の物、佃煮など、昼食および夕食は副食に香の物が基本であった。定食の価格は Table 5 の通りであり、定食だけでは足りない利用者には追加食(ご飯約 0.7 合)を販売していた。

なお、東京市社会局年報を基に定食の売り上げの推移をまとめたものが Table 6 であり、食堂数の括弧内の数字は甲定食と乙定食を取り扱っている食堂の数を(甲/乙)で示している。

Table 5. Price list of set meal

提供年代	種類	朝食	昼食	夕食
大正9年		12銭	15銭	15銭
大正10年~昭和4年		10銭	15銭	15銭
昭和5年~	甲	10銭	15銭	15銭
	乙	8銭	10銭	10銭

Table 6. Sales table of set meal

和暦	食堂数	甲定食		乙定食		定食合計		1人当たり月平均売上(円)	備考
		人員(人)	金額(円)	人員(人)	金額(円)	人員(人)	金額(円)		
大正9年	2					819890	116807.66	0.142	8329.119 計測期間4~10月
大正10年	2					1928548	262624.46	0.136	10942.686 計測期間12~11月
大正11年	2					1940571	260072.45	0.134	10836.352 計測期間12~11月
大正12年	4					824858	112843.00	0.137	7052.688 計測期間12~3月
大正12年	10					3397075	463939.50	0.136	3863.663 計測期間4~3月
大正13年	11					7549016	1027174.75	0.136	7386.172
大正14年	10					4753119	618588.80	0.130	5154.907
大正15年	6					3210410	438899.95	0.137	6033.055
昭和2年	10					3915200	534662.15	0.137	4455.518
昭和3年	8					3935273	533792.55	0.136	4942.524
昭和4年	11					3780003	507440.40	0.134	3844.245
昭和5年	11	2597680	346466.60	436114	40895.09	3023794	397361.69	0.129	2934.568
昭和6年	14	1423307	192723.43	844856	78806.30	2268163	271529.73	0.120	1616.248
昭和7年	16(11/15)	915130	124844.35	1364513	129713.30	2279643	253557.65	0.111	1320.613
昭和8年	16(12/15)	808302	113458.03	1513582	143022.34	2321884	256480.37	0.110	1335.835
昭和9年	16(11/15)	630491	86704.70	1684367	158209.68	2314858	244914.38	0.106	1275.596
昭和10年	16(13/15)	698460	96288.05	1449106	135970.04	2147566	232158.09	0.108	1209.157
昭和11年	13(10/12)	636729	88029.90	1583745	176590.32	2220474	264620.22	0.119	1686.263
昭和12年	10(10/9)	700302	94112.45	1204235	141769.19	1904537	235881.64	0.124	1965.680

5. まとめ

以上のように、公衆食堂の運営実態を把握するため、文献調査に基づき、公衆食堂の開設期間、経営状況、運営内容を把握・整理した。

公衆食堂は、米騒動を契機として、庶民の食生活難を解消し、社会不安を緩和するために設置された公益施設であるが、その運営内容を見ると、たとえば神楽坂食堂においては、軽食への対応など多様な食事を提供したり、情報発信や娯楽を提供したり、さらに利用者の利便性に配慮してサービスを充実させたりするなど、地域生活の拠点施設としての役割も担っていた可能性がある。

また、公衆食堂は、原価に比べて明らかに高い料金を設定している周辺のうどん屋や蕎麦屋を牽制するために、廉価でうどん販売を開始するなど、食事価格の安定化にも寄与する施設であったと推察できる。

今後は、公文書や広報、さらに新聞記事等の史料分析を進め、公衆食堂の運営実態をより詳細に明らかにするとともに、公衆食堂の社会的な役割や存在意義について考察を深めていく。

6. 参考文献

[1] 東京市社会局:「東京市社会局年報」,東京市社会局, 1920-1937
 [2] 東京市社会局:「市設食堂経営策に関する調査」,東京市社会局, 1936
 [3] 東京市:「東京市広報」, 1920-1943
 [4] 東京都:「東京都広報」, 1943-1945